

NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第78号(201601)

発行 竹田幸男



平成27年度 寝屋川市映像協会忘年会

12月20日(日)9時から11時まで総合センター視聴覚室で映像寝屋川と合同例会を行い、それから寝屋川市駅前まで移動、がんこ寝屋川店で正午から忘年会を開催しました。参加14人で乾杯の後、食事・懇談に入り、持ち寄り品の抽選では、「ハリーポッター」などのDVDソフト、DVDドライブやメモリーなどのパソコン用部品なども含め多彩な品々が集まり、ジャンケンが白熱、暖かい年末の午後、楽しいひとときが過ぎていきました。

竹下会員の逝去

去る12月2日、竹下 功会員が入院先で逝去され、12月5日(土)香里園

の京阪典礼会館で葬儀が行われました。竹下さんは11月13日(金)の11月例会に出席帰宅後、発症され入院、転院先の病院で亡くなられたとのこと。

竹下さんは映像同好会発足当初から入会され、長年皆さんとともに優れた作品を制作されてきました。謹んでご冥福を祈ります。

例会の窓

平成27年12月例会

日 時：平成27年12月9日(水)

13:30～16:45

場 所：産業振興センター5F 会議室(大)

出席者：天野 新井 小笠原 佐伯 竹田

谷 田淵(50音順・敬称略)

寝屋川支部地区委員 吉岡さん

欠席者1名

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報 今回は竹下さんの逝去を受けて、竹下さんの追悼文を全員で。

(2) 竹下さん告別式供花代の分担(済み)

(3) 忘年会 12月20日(日)

9:00～11:30 総合センターで合同例会

出品作は映像フェスティバル出品作を優先、終了後がんこへ移動

12:00～忘年会 今年も持ち寄り品を。

出席 天野 新井 小笠原 佐伯 竹田 谷

2. 協議事項

(1) 第10回 寝屋川映像フェスティバル出品作品の検討

・最後の確認が1月例会になるので、それまでに仕上げて頂く。

(2) 松愛会寝屋川支部40周年記念行事、同好会展示内容の討議(28年1月30日(土))

・パネル2枚の内容概略決定、1月例会で仕上げする。

・活動PR映像の編集担当 写真・動画の収集(どんな場面が必要か)

(3) 作品展(28年1月8日(金)～11日(土))への対応

・メールで依頼したように各人の作品の作品名・内容解説(30字程度)・映写時間 メールで竹田まで。

・作品はBD又はDVD、今日そろわない人は今年中に竹田まで

・ 1台は流し放しにするならば、BD 1枚に各人1作ずつの作品を入れる。各人の代表作を決定して通知して頂く。

・ 機器の用意 プレイヤー テレビ(吉岡さんに依頼済み)

- ・ 当番の決定 1 / 8 午前中：谷 天野 午後：佐伯
1 / 9 午前中：竹田 新井 午後：天野 谷
1 / 10 午前中：新井 竹田 午後：小笠原
1 / 11 午前中：吉岡 午後：佐伯

3. 映写・研究発表

会員持参作品の映写

(1) 小笠原さん おうみ子供園児 かぶと山ハイキング

90名のかわいい園児を撮影、100枚のDVDを作成してプレゼントされます。

(2) 新井さん 美山かやぶきの里 9分04秒

BGMがあればいい

田んぼアートのドローンによる撮影 3分53秒

初ひ孫・こんにちは 3分08秒

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等

5. 来月の開催日・新年食事会 1 / 13 (水) がんこ11:30集合

・ 田淵さんに場所設定依頼した。



竹下 功さんを偲んで

竹下さんの思い出

谷 弘子

以前、映像同好会の田淵さん(寝屋川竹炭づくりの会)からメンバー全員に筍を頂きました。その時竹下さんのご自宅まで米ぬかをとどけに伺いました。

そしたら 庭へどうぞと案内してもらい、咲いているお花を切って花束にして下さいました。お花が大好きなのを初めて知りました。気さくに話されるので、長い時間おしゃべりしたのをおぼえています。

今年1月の定例会の帰りに、竹下さんが「海外へ旅行中にビデオ撮影したのだけどどうしてもわからない曲名がある」とおっしゃいました。音楽に詳しい弟な

ら知っているかもしれないと思いDVDをお借りした。早速、夕方弟に電話してその音楽を聴いてもらいました。わかったのです。マルティニー「愛の喜び」CDもあるよとの返事。すぐ竹下さんにメールでお知らせしました。

「早速ビデオに入れます」とのご返事がありました。

夏には「珍しい花の種を蒔いて、たくさん芽がでてきたので、如何ですか？」と声をかけて頂き早速、頂きに伺いました。そのときもお庭の大きな木のお話や花のお話をされる竹下さんの笑顔が印象的でした。おかげで、珍しい花を咲かせて楽しむことができました。

竹下さんは、海外旅行に奥様と何度も行かれたそうです。

奥様が亡くなられた後、奥様の映像を多くのビデオから探されたときいています。

「映像があっても家内の声が入っていないんや」と、すごく残念がっておられたのを覚えています。

今、私は、ビデオ撮影中、自分の声も入れようと思うようになりました。

竹下さん！ もってもっといっぱい いろんな事を教えて頂きたかったです。

有り難うございました。

竹下功さんを偲ぶ

新井正直

私が、松下電器産業株式会社、第一事業部、研究課に入社（昭和31年）し、材料の化学分析をはじた頃に、竹下功さん、大学院卒・理学博士が、私のいる材料解析グループにこられ、質料分析装置の開発をされていました。その時以来の付き合いです。

仕事以外で、竹下さんと一緒に作業をしたのは、お互いが卒業して松愛会の三十周年記念に、元気、元気の寝屋川支部のビデオを作成するために、ビデオカメラを持ってる人が、集まった時から、映像同好会が生まれ、約十年間、ビデオを作成し、作品を発表されていましたが、竹下さんの作品は、テーマについての洞察力が完璧で、ストーリーがはっきりしているので、いつも感心していました。

もうあの温厚な、竹下さんに逢えないのか……。ご冥福をお祈りします。

竹下さん 追悼

天野忠一

『竹下さん もう一度一緒に』と言っても、もう私たちのところには帰って来ていただけませんね。寂しく非常に残念な気持ちでいっぱいです。

竹下さんの作品を振り返り見させていただいた時、大変丁寧な撮影と随所に編集テクニックを活かされた作品が多かったように思います。『あの編集はどのように？』とお聞きしたいと思ったのですが少し遅かったです。

作品では海外の撮影分を結構見拝見しました。あまり海外へ旅行した事のない私にとっては羨ましく思うとともに、海外旅行に出かけた気分させていただきました。この件についても御礼を申し上げなければなりません。

最近、編集に関する会話をあまりする機会がございましたね。お互い編集ソフトがDV-Stormを使用していた時にはいろいろと質問を受けました。(私が竹下さんより先に使用していたためと思いますが)少しばかりの経験から回答をさせていただいておりましたが正しかったのでしょうか。いい加減な回答にはなっていませんでしたか。

竹下さんはハイビジョン撮影で編集、私は相変わらずSD画質で撮影編集でしたが、やっと安価なハイビジョンカメラを手に入れましたので、早く追いつこうと思っていたところでした。もう少し時間が必要ですが、撮影・編集したものを一度ご覧いただきたかったですね。

竹下さんの会話・行動から伺われる人生哲学的なもの、そして身近な接点であるビデオに取り組まれる姿勢等々から、それとなく教わった数々の事に対し大変感謝いたします。

本当にありがとうございました。どうかやすらかに休息ください。 合掌

竹下先輩への哀悼の辞

小笠原邦雄

寝屋川映像同好会に入会した際、思わぬ方から入会したと竹下さんから聞いたよ。頑張ってるねと、言われて驚きました。

思い出は、大分県竹田市の作品でした。第2の職場・別府市で仕事をすることがあり、興味を持って、竹田市のご出身ですかとお聞きしました。違うとお聞きし、作品作りのヒントを得ることが出来ました。以降、科学者らしい作品作りに感銘し、私も頑張ることが出来ました。ありがとうございました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

竹下さんの思い出

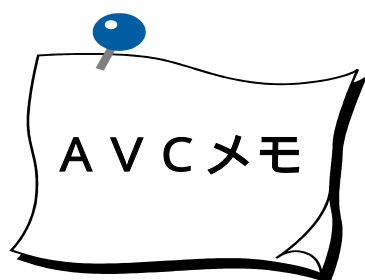
竹田幸男

竹下さんの最後の思い出になったエピソードを一つ。
昨年、作品「巨木探訪」をお作りになりました。そのスケールの大きさから、これは、是非大阪アマチュア映像祭へ出品して頂こうと思いましたが、作品を受け取って詳細に検討すると、映写時間は10分と言うことでしたが、実は10分7秒ほどありました。竹下さんにその旨を申し上げると、実は、この作品に出てくる巨木が、木の王様という意味を込めてベートーベンのピアノ協奏曲・皇帝、第1楽章をバックに使ったので、曲の途中で切れなくて、この時間必要だった、と言

うことでした。10分を超えても、この場合出品は可能なのですが、出品料は7秒でも1分オーバーの分になるんですが・・・ということで、10分に抑えようという話になり、そのまま縮めると速度を上げて約1%音程が上がり、たとえばAの音が標準440ヘルツの所、444ヘルツ強になりますね、という話をしました。そのとき竹下さんは、音楽が4ヘルツ上がっても音楽家でなければ気が付かないだろうが、ナレーションを入れてくれた人は、自分の声が変わって聞こえたら気になるだろう、と言われて、編集のタイムラインで音楽だけ速度を上げて時間を短縮し、それに合わせて映像を切って合わせようと言われて無事10分以内に収まりました。この作品は27年11月1日に大阪アマチュア映像祭で上映され、たいへん好評を得ました。竹下さんも会場へ来られ、ご友人とともに鑑賞されていました。竹下さんの作品が生前最後に大阪アマチュア映像祭の大スクリーンで映写できて、本当に良かったと思います。

竹下さんは年齢的に旧制高等学校のご出身で、その同窓会の映像も見せてもらったことがあります。旧制の高等学校は今の高校よりも一般教養を重視されていたのではないかと私は思うのですが、そういう学歴からか、また本人の知識欲か、何事にも非常に博識多才の方で、たとえば作品「フィレンツェ追想」でも、フィレンツェの至る所で詳細な蘊蓄を披露され、中でもフラ・アンジェリコの「受胎告知」の絵画を中心にご自身の思いを語っておられたのが印象に残ります。

寝屋川映像同好会発足当初からのおつきあい、まだまだ元気で活躍して頂きたかった竹下さんとの突然のお別れは、心に大きな空洞が出来た思いです。



松愛会文化展の舞台裏

竹田幸男

松愛会寝屋川支部が、発足以来40周年になるのを記念して、会員から作品を募集して記念文化展が平成28年1月8日(金)から11日(月)まで開かれることになりました。会場は寝屋川市駅前の市民ギャラリーで開かれることになり、ここは図書館の一部なので大きな音は出せない、という制約があり、この制約の中で、いかに映像同好会をアピールできるかを考えました。色々考えた結果、BDディスクプレーヤーとテレビでを使って、リクエストを受けた作品をヘッドホンで視聴してもらおう、というスタイルにしました。そこで、会員の皆さんに各人自作を5作程度、BDまたはDVDに入れて出して頂くことになりました。

Aさんの作品の場合、2つの問題がありました。

リクエストを受けた作品のみを選んで映写するにはメニュー画面が必要になりますが、使われた編集ソフトの機能上の問題か、メニューが入っていません。

プレーヤーに掛けたところ、4対3の縦横比で撮影・編集された映像が16対9になって映写されました。

の問題は、使用された編集ソフト「超編」がメニュー作成に対応していなかったことで、メニュー画面を作ることが出来なかったのです。

の問題については、使用された編集ソフト「超編」は4対3以外に16対9にも対応するのですが、16対9の編集モードの中で、そこに4対3の映像を挿入すると、画面一杯、すなわち16対9の画面になってしまい、いずれにしてもそのまま再生すると16対9でしか見る事が出来ません。

例会では再生装置を調整して4対3で視聴できましたが、交代で当番を決めて、お客のリクエストに応じて作品を映写する場合、当番者に、そこまで調整することをお願いすることは難しいと考えました。

結局、「Edius」を使って作品を再編成して対処しました。

Bさんの場合、プレーヤーに作品ディスクを挿入しましたが、メニュー画面が出てこないで、いきなり最初の作品が映写されました。作者に問い合わせると、ディスク制作はブルーレイレコーダーで行い、メニューも付けた、と言うことですが手もとのBDプレーヤーではメニュー画面が出てこないで、作品選択ができません。

ブルーレイレコーダで作られたメニュー画面と手元のプレーヤーとの互換性がないのか、原因は突き止められなかったが、時間がないので、この場合も「Edius」でメニュー画面を付けて作り直しました。

作品展では小型テレビとブルーレイプレーヤーを組にして、これを2組使って行い、1組は小音量で作品を連続して流しておくことにしました。もう1組は予定通り鑑賞者のリクエストに応じてメニューから選択してヘッドホンで鑑賞してもらうことにし、熱心な鑑賞者に視聴して頂くことが出来ました。

ヘッドホンは2セット用意して並列に接続して2人で同時に聞いてもらえるようにしたかったのですが、2入力を並列にするアダプタのプラグ周辺の直径が大きく、テレビのヘッドホンジャックに入らず、2台並列使用は断念しましたが、幸い2人で聞きたいという希望はなかったようです。

今回はこのような公開方法をとったため、今までに経験しなかった問題が発生しましたが、何とか対処でき、今後の参考になれば、と思います。